

現場代理人兼主任技術者 堀内 浩平



4. 施工上の問題点

本工事の管は水道管であるため、全路線の管布設後、洗管を行う事になっている。その時、必ずといって良いほど土砂が発生しているのが現状である。

そこで、施工業者として「施工段階で管内に土砂や雨水等の流入する」という懸念を限りなくゼロすることが出来ないかが我々請負者の一つのテーマであった。

5. 問題点における対策

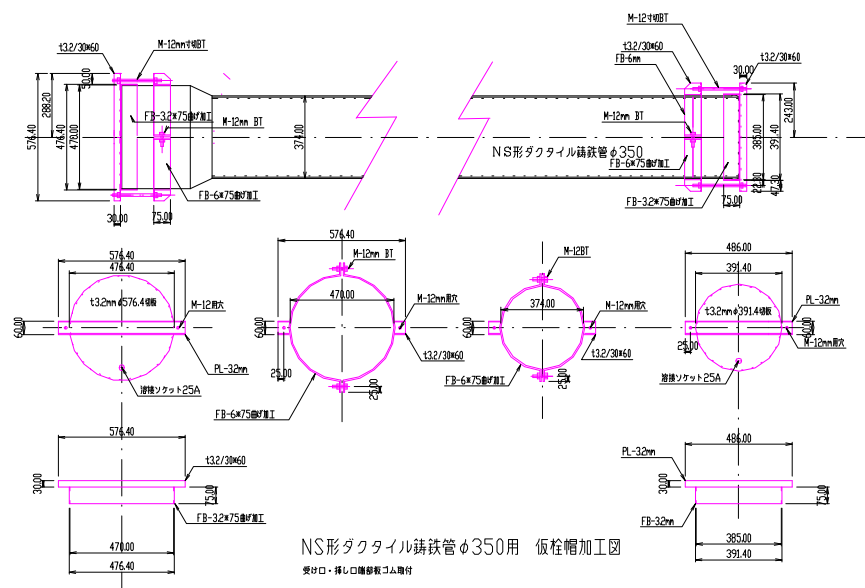
では、いつ管内に土砂や雨水が流入するのかを検討した。

流入する時期

- ① 現場事務所の管材置場
- ② 施工中、管接合・埋め戻し
- ③ その日の施工終了から翌日施工開始まで

上記の対策として以下の事項を行った。

- ① 工場から現場に到着し施工するまでプラスチック製のキャップがついているので取り外さない事とした。
- ② 施工中は管接合のチェックリストを活用し必ず清掃した。
- ③ 従来の施工は作業終了後当て板とビニール製の袋を被していたが、今回は下図のような仮栓帽を受口・挿し口各々1基作成し、その日の作業終了時に設置し翌施工開始まで取り外さない事とした。





6. 結果

上記の対策を行った結果、本工事(第1工区)において管内に土砂の流入がないと自負できる施工管理が出来た。

施工した水道管はまだ全路線が完了していないため、洗管作業を行ってはいません。

しかし、工事の問題点の対策③で使用した仮栓帽を発注者である静岡県企業局西部事務所で評価していただき、第2工区以降の全ての工事でこの対策を採用する事が決定した。

これからも、ただ与えられた施工を行うだけでなく、完成した商品を使用する人達のことまで考え、技術の向上に励み、若いては、地元社会における社会整備基盤の向上に尽くして行きたいと思います。

以上